

4 / 23

新たな**市民の命**を守る 海老名市から消防自動車を受贈



▲受贈式を終えて配属先へ向かう消防自動車

4月23日(金)、市民会館で神奈川県海老名市から寄贈のあった、消防自動車5台の受贈式が両市から70人が出席し行われました。

この寄贈は、昨年11月に宮城県白石市で行われた『登別・白石・海老名市長てい談※』の際に、小笠原市長が、当市の消防自動車を更新の時期に来ていることを話したところ、内野優海老名市長から、首都圏の排ガス規制により使用できなくなる消防自動車の寄贈の申し出があり、これをありがたく受けたものです。

受贈式には、内野海老名市長も出席され「これまで、海老名市民12万8千人の命を守ってきた車が、登別市民の命を守る車として、新たな役割を得られたことは、とてもうれしい。これからも、さまざまなことで登別市と交流を進めていきたい」と話されました。

※てい談…3人が向かい合って話し合うこと。

5 / 1

おもてなしの心で 訪れた人に登別をPR

登別市観光ボランティアガイド出発式

5月1日(土)、地獄谷展望台で『平成22年度観光ボランティアガイド出発式』(登別市観光ボランティアガイド会主催)が行われ、10月31日(日)までの活動がスタートしました。

出発式では、大平定子会長が「登別にお越しになった方がたの良い思い出となるよう『おもてなしの心』をもって接していただきたい」とあいさつ。その後、集まった37人のガイドは、打ち合わせも早々に活動を開始していました。

当日は、大型連休中とあって多くの観光客が登別温泉を訪れており、ガイドの皆さんは、すすんで写真撮影を手伝ったり、散策路を案内するなどきめ細やかな『おもてなしの心』をもって湯のまち登別をPRしていました。



4 / 28

新たに21人が 生涯学習の門をたたく

ときめき大学・婦人短期大学入学式



4月28日(木)、『ときめき大学』と『婦人短期大学』の、平成22年度入学式・始業式(市主催)が行われ、新入生21人が、在校生に迎えられ、生涯学習の第一歩を踏み出しました。

はじめに、小笠原春一総長が「これからの人生の『いきがい』や『やりがい』を、学びや交流を通して見いだしてください」とあいさつ。その後、新入生を代表して大野圭子さんが「志を同じくする多くの仲間と積極的に交流を深め、互いを高めあいながら、楽しく学習してまいります」と誓いの言葉を述べました。

入学式の後には、初回の学習会として、北海道胆振総合振興局から講師を招き『健口で百歳を生きる』と題した講演が行われ、生徒たちは講師の話真剣に聞いていました。